

～令和6年産米作柄振り返り～

1. 令和6年産米の生育状況

- (1) 4月の高温傾向、5月上旬の寒暖差によりヤケ苗、ムレ苗等の育苗障害や褪色・徒長が散見され、例年より植え傷みが多い傾向でした。さらに5月中旬からの低温も重なり、分げつ発生の遅れなど初期生育に影響しました。
- (2) 梅雨入り後は高温・多雨が続き、中干し効果が十分に得られず、葉色が濃く、草丈が長く推移しました。そのため、穂肥は1回目を控え、2・3回目に重点を置いた施用が行われました。
- (3) 平年と比べ8日遅い8月1日の梅雨明けでしたが、出穂盛期は平年並みの8月6日となりました。その後、局所的な降雨を起因とした倒伏が8月中旬より見られ、9月上旬には全域で倒伏状態となりました。
- (4) 刈り取り作業は倒伏のため難航し、9月中旬の長雨も重なって、後半は刈り遅れによる品質低下を招きました。

2. 農産物検査結果（10月末時点）

図1【令和6年産米 地区別1等米比率】

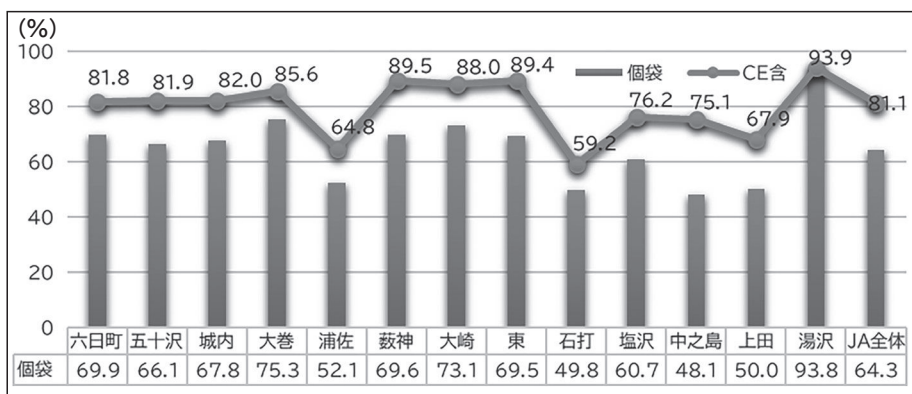
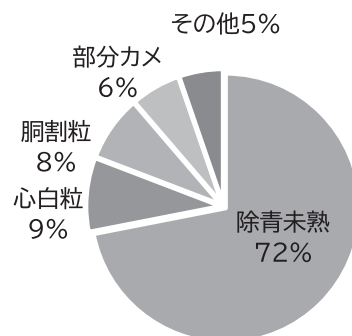


図2【主な格落ち理由】



3. 品質・収量の双方に影響を与えた要因

最大の要因「倒伏」

長期的な曇天により6月下旬からは指標値と比べ葉色が濃く推移し、草丈は指標値や甚大な倒伏被害を受けた令和2年と比べても、7月上旬から著しく伸長しました。

その結果、下位節間も近年で最も長く、稈長は平年値+9.5cmの98.7cmとなり、倒伏を助長しました。

図3【葉色の推移 (SPAD)】

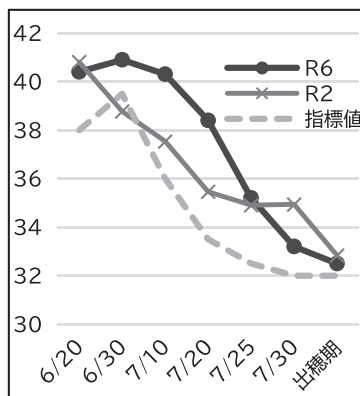


図4【草丈の推移】

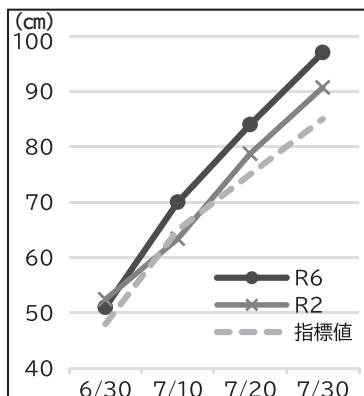
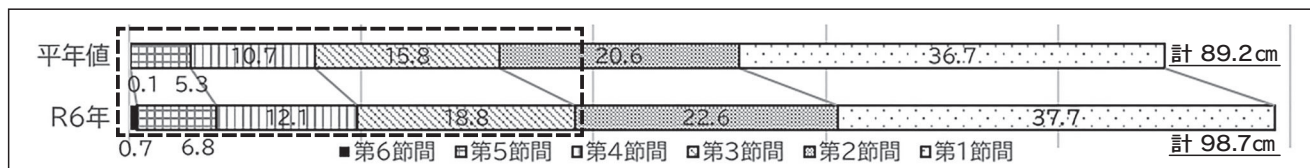


図5【節間長伸長比較 (cm)】



※平年値: 令和1～5年平均

早期倒伏や倒伏した際に重なった下層部であるほど粒厚が小さく、青未熟粒も増加することから、整粒歩合が大幅に低下し、収量及び品質が低下しました。

(1) 収量低下要因

表1【収量構成要素】

	穂 数 (本/㎡)	1穂穂数 (粒)	総穂数 (粒/㎡)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	構成要素収量 (kg/10a)
令和6年	327.0	82.0	26,421	82.0	22.3	479
指標値	350.0	74.0	26,000	85.0	23.0	506
段階評価	やや少	やや多	並	やや不良	やや小	やや少

①穂数の減少（やや少）

- ・苗質不良や移植後の低温の影響により、初期分けつが確保できませんでした。
→ 後発の分けつは弱小茎で稔ることができず、穂数の減少につながりました。（有効茎の減少）

②登熟歩合の低下（やや不良）、千粒重の低下（やや小）

- ・早期倒伏や日照不足等の影響により、登熟が順調に進みませんでした。
→ ㎡当たりの穂数は指標値「並」でしたが、登熟不良により小粒傾向となりました。

(2) 品質低下要因

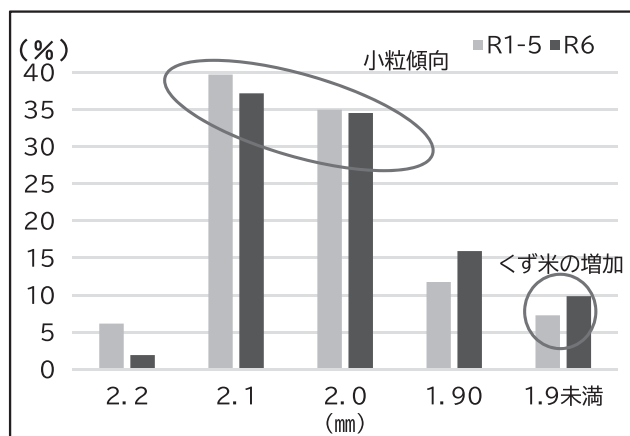
①除青未熟粒、心白粒の発生

早期倒伏により、米粒への養分転流が阻害され、また低日照による登熟不良により除青未熟粒、心白粒の発生を助長しました。

②胴割粒

倒伏に加え、収穫盛期に9日間連続の降雨に見舞われたため、収穫作業が長期化しました。この降雨と刈り遅れにより胴割粒の発生を助長しました。

図6【粒厚分布の比較】



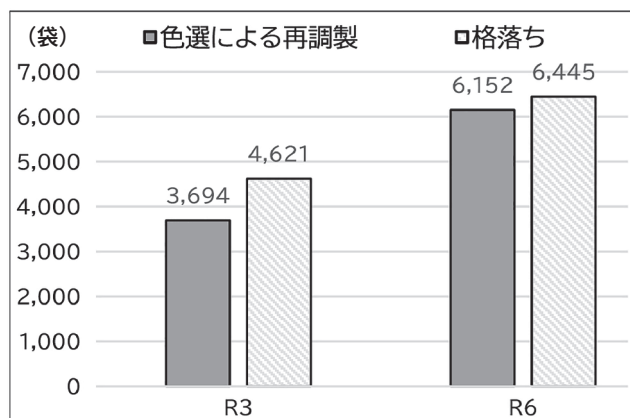
③部分カメの発生

全国的にカメムシの発生が多く、県内でも7月に注意報が発令されました。

当管内も格落ち数量とJAでの色彩選別機による再調製数量が大幅に増加しました。

カメムシ被害が多かった令和3年度と比較しても1.5倍以上に増えており、発生及び被害の大きさが品質低下に影響しました。

図7【格落ち数量と色選による再調製数量】



初期生育不良に天候不順が重なり、倒伏及びその程度が収量と品質に大きく影響！

～令和7年産米重点対策～ 『一步先を見据えた 基本技術の励行』

令和6年産米は、6月中旬からの高温・低日照による稲の長草化が早期倒伏を招いた結果、品質・収量に大きな影響を与えました。令和7年産米は結果につながる基本技術の再確認と励行に重点を置いた技術対策に取り組みます。

1. 稲体を健全に保つための土づくり ～有機物、ケイ酸、鉄の施用～

例年の有機質、ケイ酸資材の施用に加え、昨年は生育量が大きく稲わら残渣が多いことから、ワキが発生しやすいと考えられるため鉄資材の積極的な使用を推奨します。

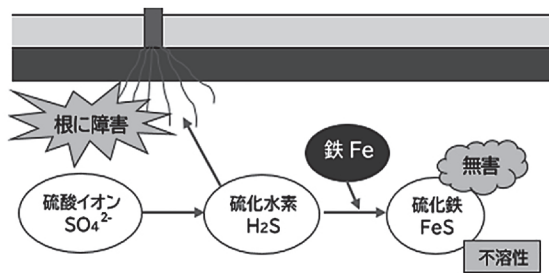


図8【硫化水素発生を抑制する鉄の働きのイメージ】

2. 高温条件に合わせた播種・育苗計画 ～健苗が収量・品質アップの大きなカギ～

近年、高温により老化苗や徒長苗になりやすいため、高温条件での育苗計画を再確認し、健苗育成に重点的に取り組みます。

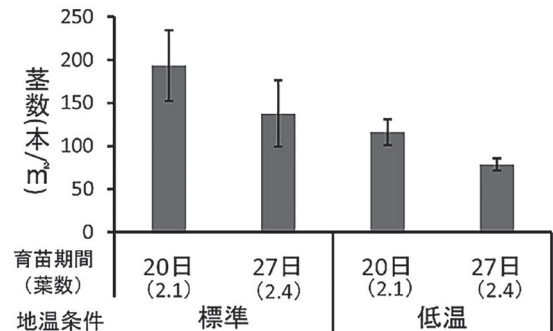


図9【育苗期間が初期分げつの発生に及ぼす影響】

出典：水稻栽培指針（R3.2）

3. 適期中干しで生育量を適正量に調節 ～登熟歩合の向上で品質・収量改善～

適期中干し作業の効果として

- ・穂数や籾数を適正数に調節することで倒伏軽減
- ・酸素供給による根の健全化で登熟歩合の向上について再周知を図ります。

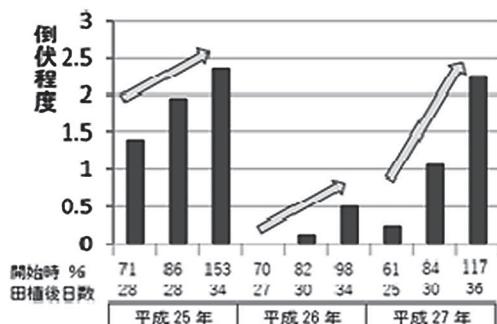


図10【中干し開始時期と成熟期の倒伏】（作物研究センター）

※有機50%肥料栽培、平成25～27年。開始時％は目標穂数（350本/m²）に対する中干し開始時の茎数の比率。田植後日数は中干し開始時期を示す。

4. 適期穂肥で後期栄養確保 ～目指せ「最後まで元気な稲づくり」～

高温条件下では、出穂前の葉色が低下しやすく、その差が大きいほど整粒歩合が低下し、稲体活力の消耗も激しくなります。

そのため出穂期の葉色確保（後期栄養の確保）を図り、葉色の急低下防止対策に努めます。

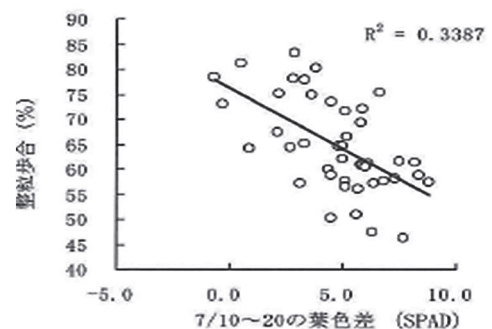


図11【7月10～20日の葉色差と整粒歩合】

（H22年普及指導センター） 出典：水稻栽培指針（H29.3）

5. 除草と薬剤散布で斑点米の防止強化 ～カメムシが近づかない圃場管理～

カメムシ等の病害虫が増加傾向のため、ほ場内外の雑草防除と併せて、薬剤防除体制の強化を図ります。

6. 早めの刈り取り準備で品質確保 ～余裕を持った作業開始計画～

近年、刈り取り開始時期が早まることが多く、適期幅も短くなっているため、準備は積算温度900℃を目安に完了し、刈り遅れによる品質低下防止を図ります。

具体的な技術対策につきましては、随時「あぜみち」等でお知らせいたします。

園芸技術情報

～果樹の越冬病害虫防除～

落葉果樹は冬期間（シミ渡りの頃）の発芽前散布で、生育・品質低下を招く病害虫の発生を防ぎましょう！

●石灰硫黄合剤

作物	適用病害虫	希釈倍率	使用時期	使用方法	使用量
落葉果樹	カイガラムシ類、ハダニ類 越冬病害虫	7～10倍	発芽前	散布	おおよそ 10～20ℓ 木1本
もも	縮葉病、胴枯病、黒星病	7倍			
うめ	縮葉病	8倍			
なし・りんご	黒星病	7倍			
くり	芽枯病	20～40倍			
すもも・あんず	ふくろみ病	140倍	－	冬季	
かき	黒星病、うどんこ病	100倍	－		
果樹類	ハダニ類、サビダニ類	20～40倍 80～200倍	夏季		

※皮膚や眼に対して刺激性があります。作業時は適切な作業衣を着用し、作業後は手足や顔をよく洗い、洗眼を行ってください。
※薬剤がしっかり付着するように展着剤を加用し、薬剤調整後はなるべく早く使用してください。
※散布液は匂いがとても強く、自動車や石材に付着すると変色する恐れがあります。散布時は周囲へご配慮ください。

※「石灰硫黄合材」は、「ボルドー液」や「キング95マシン」との混用・併用はできません。

※強アルカリ性薬剤となります。混用は避け、使用後の器具は腐食しないよう、十分に洗浄しましょう。

※薬剤使用時は、商品のラベルに記載された登録内容と注意事項をよく確認し、正しく使用してください。

目指せ!

販売金額100万円/10a!! ～八色西瓜 新規生産者 大募集～



おすすめ理由

現在は水稻のみだが、園芸も取り組んでみたい。

なにがいいんだろう？しっかり収入が取れるものはなんだろう？

…ずばり!!西瓜をおすすめします!!



その1 水稻経営との相性がよい！基本の作型は水稻との両立が可能！

【作業スケジュールイメージ】栽培方法：改良整枝

	4月			5月			6月			7月			8月			9月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
水稻						田植え						穂肥						稲刈り
西瓜			定植				交配				収穫							

その2 当地域の路地園芸品目としては最も所得が高い！

【八色西瓜 収支事例】植付株数 250 株 / 10a × 着果 2 玉 / 株、出荷 450 玉の場合

収 入		収入(計)	経 費		経費(計)	粗収益
販売金額	7 2 万円	8 7 万円	資 材 費	3 1 万円	5 1 万円	
奨 励 金	1 5 万円		出荷経費	2 0 万円		
						3 6 万円

※奨励金は2L以上の玉に対し500円/玉を加算。奨励金対象率を70パーセントで試算。

その3 西瓜選果場があるので、出荷作業はラクラク！

収穫した大玉西瓜は、大型コンテナに積んで選果場に運び込んで作業完了です。

出荷、調整、選別、箱詰め作業まで全て選果場で行うので、生産者の作業負担を大幅に削減できます！

その4 各補助事業の活用

全農担い手支援策・にいがた農業応援ファンド・JA農業者応援事業等を活用し、新規作付けや生産拡大にかかる資材費等のコストを削減できます！※補助事業の詳細については別途ご案内します。

新規の方でも安心して栽培できるよう、八色西瓜生産組合・JA指導員による栽培講習会の開催、技術指導や補助事業の申請等、幅広くサポートします!!お気軽にご相談ください。

お問い合わせ：TEL 園芸畜産課(大和)777-3180 営農指導課(大和)777-3786
営農指導課(塩沢)782-1171 営農指導課(六日町)773-6121